

全ての人に食の安心を伝えるには～より認知される食材ピクトグラムの提案～
In order to convey food safety to all people
~Proposal for more easily recognized food pictograms~

1. 目的

料理や食品に含まれている食材を正確に把握してもらうため、14 品目の食材ピクトグラムが、全国の飲食店や自治体、国際会議などで使用されている。しかし、外国人観光客の増加やアレルギー人口の増加、日本人の食の多様化により、これら 14 品目の食材ピクトグラムだけでは対応しきれていない。そのため、自治体や企業が独自に食材ピクトグラムを作成し、同じ食材を表しているにも関わらず、全く異なったデザインのピクトグラムが乱立している。そこで今回は、対応できていない食材の認知度、つまり見た人の理解度がより高くなるピクトグラムを提案することを最終目標とし、アンケートを行った。

2. 調査・研究の方法

アレルギー人口が多い食材、宗教上食べてはいけない食材に対して、それぞれ 2 から 4 種類の選択肢を挙げ、その中から自分のイメージに近いものを一つ選んでもらうというアンケートを行った。分からないものに関してはその理由も回答してもらった。

日本人 315 名、外国人 82 名、計 397 名の有効回答を得た。

3. 分析・考察・結論

今回はアンケートを行ったものの中から特徴が大きかった果物類、サケ、ナッツ、ゼラチンの 4 品目について述べる。

果物類は、日本人と外国人でその食材に対するイメージに大きな差が出なかったため、既存のピクトグラムのままで問題ない。

果物類以外の 3 品目からは、「目にすることがない形」や「原材料を知らない人は表しているものが分からない形」が使用されているピクトグラムは認知度が低いということが分かった。これらのピクトグラムは「原材料を正確に把握してもらう」という役割を果たしていない。今回は、複数の選択肢を挙げ、認知度調査を行ったことで、認知度の高いピクトグラムを提案することができた。

これからの食材ピクトグラムは、より認知されるものにする必要がある。そのため、日本や外国の食文化、社会背景を踏まえたうえで、実際によく目にする姿、認知度の調査を行い、それに基づいて作成されるべきだと提言する。

4. 参考・引用・協力

『ひと目でわかるシンボルサイン 標準案内用ガイドブック』交通エコロジーモビリティ財団、日本ナッツ協会、株式会社フードピクト など